



＊けやきコミセン30周年＊

未来につなぐコミュニティ



けやきコミュニティ協議会



目 次

挨拶 祝辞 けやき憲章・活動方針	代表 武蔵野市長	寺島芙美子 松下玲子	・・・ 1
緑豊かな吉祥寺北町	イラストマップ		・・・ 2
けやきが大切にしている活動から			・・・ 3
まちづくり局			・・・ 4
伝えたいこと、願い けやきコミセンこうだったらいいな ～皆さんからのご意見			・・・ 5～8
30周年記念事業 ロゴの作成・アート企画・記念ベンチについて			・・・ 9～10
エレベーター設置に伴うリニューアル工事			
けやきの30年を振り返って			・・・ 11～16
表紙に添えて	編集後記		



「未来につなぐコミュニティ」

けやきコミュニティ協議会 代表 寺島 芙美子

平成元年にけやきコミュニティ協議会が創設されてから30年の佳節を迎えました。開館以来今日までご支援、ご協力頂いた地域の皆様、諸団体、行政の皆様にご心より感謝申し上げます。

期待と希望を込めて作られた「けやきの精神」は運営委員の真髓として大切にしてきました。ユニークで開かれたコミセンを目指し、館内の充実や、外への発信を積極的に行い、まちづくりの視点を念頭に、人と人を繋げることによって出来た一例が「まちづくり局」。現在も多種多様な活動をしています。20年の節目には、「地域に拓かれたコミュニティ」をテーマにし、地域を繋げようと、いくつかの団体に声かけし、立ち上げたのが「大野田地域防災の会」でした。30年を迎えた今年「未来につなぐコミュニティ」として、けやきコミセンの良さを継承しながら新たな一歩を踏み出したいと考えています。

今後とも、暖かいご支援とご協力をお願い致します。



開館30周年おめでとうございます

武蔵野市長 松下 玲子



創立以来30年にわたり、その活動を通して地域コミュニティ発展のためにご尽力された皆さまに、深く敬意を表します。

けやきコミュニティセンターの設立に当たっては、建設準備会を立ち上げ、用地探しから建物の設計まで多くの市民の方による話し合いが重ねられ、開設するまでに7年を要したとお聞きしております。

けやきコミュニティセンターが地域の居場所として多くの方に親しまれているのは、開設当初から「話し合うこと」を大切に、好奇心を忘れずに、絶えず変化しながらコミュニティづくりを進めてこられた成果だと思います。

運営委員に限らず、やりたい人がやりたいことをできる“この指とまれ方式”で行われている「まちづくり局」の活動は、地域の人と人をつなげ、多様な活動を生み出す、けやきらしさの表れたユニークな取り組みといえるでしょう。今後もけやきが枝葉を広げ、幹が太く育っていくように、けやきコミュニティ協議会が地域の人々のつながりを広げ、地域コミュニティをますます豊かにし、地域と共に発展されることを心より期待しております。

結びに、創立30周年を迎えるにあたり、センター建設から今日までご尽力いただいた皆さまに心より感謝申し上げますとともに、けやきコミュニティ協議会および地域の皆さまの、ご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

〈けやき憲章〉

私たちは けやきの緑ゆたかなこのまちを
新しいふるさととして愛し みんなで楽しく
まちづくりをすすめます。

1 市営競技場



2 木の花小路公園



3 市役所前のさくら並木



4 成蹊大学



5 武蔵野自然観察園

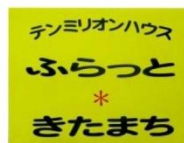


6 小道ガーデン



9 武蔵野わくらす

市内初の入所支援事業を中核とした障害者支援施設。地域生活支援拠点事業として、重度の障害があっても、「私らしく武蔵野でくらす」ことができるよう支援。



10 ふらっと・きたまち

大野田福祉の会が運営。高齢者向けのデイサービスや手作りの日替わり昼食を提供している。

緑豊かな吉祥寺北町

1989年にけやきコミセンがオープンして30年、時代の流れとともにまちは少しずつ変わりました。1995年にムーバスが開通し、地域住民の「足」として大いに利用されています。緑豊かな街並みと教育・福祉・文化・スポーツなどの施設もあり「住みたいまち吉祥寺」の一角を担っているように思います。

けやきコミセン



7 千川上水

8 成蹊学園のけやき並木





けやきが大切にしている活動から



* 「けやきまつり、夏まつり、どんどやき」

けやきコミセンの「3大イベント」です。一年間の活動の軸で、みんなで大切にしています。3大イベントは実行委員会制で、運営委員を割り振り、また地域の方々にもお手伝いいただきながら作り上げる、地域の力が発揮される催しです。

新緑の美しい頃に行う「けやきまつり」は創立前から続く、けやきコミセンの基礎となる事業です。5月の日曜日に、地域の幅広い年齢層の方が様々な形で参加され、地域にも期待されている楽しい事業です。

納涼の「夏まつり」。当初は「野外映画のつどい」として始まりましたが、現在は老若男女が大きな輪になり盆踊りを楽しめます。中学校から借りた大太鼓を地域の子供たちのチームが叩き、盛り上げてくれます。小学校の先生方の焼きとりはいつも大人気。



年の初めには無病息災を祈る「どんど焼きとむかしあそび」は、地域の他団体と共催で行っています。大野田小の校庭でお焚き上げをし、むかしあそびを親子で楽しみながら、地域のふるさとづくりを目指しています。

(小林)



* 話し合いの場をつくってきた「けやき学舎」

俗に「3日3月3年」と申しますが、市民活動というものも始めてから3年もたてば当初のやる気は失せ、マンネリズムが支配するようになるものです。長い建設運動の末にようやく開館にこぎ着けた、その直後から

「3年目の不幸」に思いを馳せていたことは、まさしく「けやき」に先見の明があった証です。コミセンが出来上がり、コミセンを管理していく仕組みも立ち上がったけれど「その次」のことを考えておかなければ、きっとマンネリの底に沈んでしまうに違いない。こうした問題意識によって生み出されたのが「けやき学舎」でした。

けやきコミセン建設運動のプロセスで育まれてきた「目の前のいろいろな課題をとことん話し合う」というけやきの文化を引き継いだ「けやき学舎」は、「活動をまちへ広げる」という問題意識のもと、花の道、まち歩き、まちづくり局、おもしろ発見会議、忍者修行道場などなど、けやき独自の活動を生み出すきっかけをつくってききました。そして開館から5年目には記念碑的な記念誌『けやき並木に続く道』を編集・発行するにいたります。

その後も「けやき学舎」は折に触れて、問題提起をしつつ話し合いを積み重ねています。運営委員会とは少し違った角度からテーマを設定して話し合う機会をつくってききたことは貴重な経験でした。最近では電子メールやSNSなど、便利なコミュニケーション・ツールがいろいろと使われています。しかし、実際に顔を突き合わせながら「ああでもない、こうでもない」と語り合う中から新しいものが生まれてくるという「けやきの醍醐味」を、これからも忘れたくないものです。

(江上)

＊「活気あるまちづくり局」

年間を通して行っている事業の一つに、まちづくり局というものがあります。

何かやりたいと思った人が手を挙げ、それに賛同して、運営委員を含む、三人以上の人が集まれば活動出来ます。

まちづくり局誕生の由来は、1995年にけやきコミセンとして、広く外に出て、タウンウォッチングをして、「まちを知ろう！」なにが見えるか？何が出来るか？気づいたことがあるか？をみんなで取り上げて考えました。次に1996年には、まちを知ろうではなく、「いいまち作ろう」を視点に、福祉も含め、いろいろなことに取り組みました。

現在では12チームが活躍しています。近年、立ち上がったチームは、ゲームを楽しむ会、(アナログなゲーム)：こもれびひろば(0歳児から、未就学児の親子と一緒に楽しむ企画)：ポッチャ楽笑会(障害者も地域と一緒にポッチャを楽しむ)など。幅広い年代層が活躍しています。まちづくり局は、自主参加、自主運営、自主企画にそって活動していることも、元気で楽しく続けられるものになっていると思います。(島森)



どのゆびとまりますか？ 地域で仲間づくりをご一緒に！



ひなまつり：アートくらぶ (左上)

ポッチャ楽笑会 (上)

男のカフェ：けやき茶社 (右上)

花市：ガーデナーズ (左下)

Xマスフォーキッズあそび隊 (右下)





「コミュニティづくりの実感」

安藤 頌子

「けやきコミュニティセンターが開館して30年！はじめは中央北コミュニティセンター建設準備会として「特色あるセンターづくり」を目指して発足したのがその7年前のこと。振り返ってみると、自分たちで「特色あるコミセンを」と言うくらいだから、ずいぶんいろんなことをやりましたね。勿論コミセンもないし、四中のPTA室や、都営住宅の集会所を会議室にお借りしたり、公園をバザー会場にして活動資金を稼いだり・・・ね。そう言う中で「コミュニティづくりの輪」が広がっていきました。「コミュニティアピール」もその頃作りました。

①ご近所同士知り合い、親しみあい、仲良く住みよい街にします。

②用地選定が1日も早く実現されるよう関係者の一層のご尽力を望みます。

③子どもや老人をはじめ、すべての利用者が使いやすい、ユニークな、この地域にふさわしいコミュニティセンターをつくります。(1984. 2. 25)」

全戸に配るニュースも、今やっていること、大切だと思っていることなど、具体的な内容でしたし、資金づくりに祭りで売るだんごの焼き方も上手になってね。同時に土地探しも、情報求めて一生懸命の中で3丁目のTさんからのご縁で、現在コミセンが建っている公園の一角に用地が決まりました。

男性も女性も、新も旧も、老いも若きも、大きく手をつないで一緒に土地を探し、話し合ったり、仕事を一緒にする中で、コミュニティづくりが進んだ・・・その先に今がある・・・と言うのが、その頃参加した大勢の人たちの実感だろうと思います。一朝一夕では出来ない本物のコミュニティづくりを、それ以前のクリーンセンター用地選定運動のころから、長年かけて新旧住民と一緒に活動し、親しくなっていくたその時期の、たくさんの事が重なりあって、現在のこの街の姿になっています。私たちの胸に刻まれ、各自の考え方や、感じ方、世代の違いなどを越えて「仲間」としての信頼や連帯が築かれてきました。

「けやき」の精神・・・身近なものを愛する心・他人への思いやり・大切なものへのこだわり・大らかで寛容な精神・・・みんな目には見えないけれど大切なものです。

「“けやきコミセン”と“コミュニティ構想”」

高田 昭彦

「けやきコミセン」の今の姿は、幾つかの偶然が重なり合った結果生まれたものです。それは先ず、武蔵野市だからこそ生まれたと言えます。武蔵野市では、戦後市全域に及ぶ町内会が復活しませんでした。そして、急激な都市化に対応する新しい絆の上に形成されるコミュニティを、市が「コミュニティ構想」という名で行政の施策として打ち出しました。それは旧来の町内会・自治会の制約を脱した、地域における市民参加、民主主義、市民自治を進める青写真でした。

次に「けやきコミセン」地域自体の特色があります。この地域の住民は、市が一度決めたゴミ焼却場の建設用地を、「クリーンセンター建設特別市民委員会」を通して現在の場所に変更させた経験があります。その経験から市民の集会施設の必要性を自覚した一部の住民が、「コミュニティ構想」に基づいて市に自分たちの地域にコミセン建設を要望し、7年の運動の結果「けやきコミセン」建設を実現しました。すなわちこの地域には、運動の成功経験の

歴史があります。

これら住民のコミュニティづくりへの想いは、「けやき憲章」に結実し、実際にどのような行動を取ればよいかは、運営委員の窓口研修で配付される「けやきハンドブック」に記されています。この研修を継続すると同時に、望むらくは、それらの原点になっている「コミュニティ構想」をみなさんにもう一度読んでもらいたいと思います。なぜなら「けやきコミセン」は「コミュニティ構想」の数少ない体現者の一つなのだから。



けやきコミセンこうだったらいいな・・皆さんからのご意見



「親子ひろばからの出発」

本江麻衣子

私のけやきコミセンのデビューは、親子ひろばでした。親子ひろばでは、ボランティアの先輩ママや同月齢の子供のいるママと知り合いになれて、日々の育児の不安を話したり、ちょっとした生活の工夫を聞けたりと、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。けやきコミセンでの様々な出会いは、これまであまり関わりのなかった「地域」へ目を向ける良いきっかけになりました。けやきコミセンには、今後も益々人と人、人と地域をつなぐ役割を担って行って欲しいと思っています。地域には様々な世代の人や、それぞれ異なる条件のもとで生活している人がいます。これまではあまり接点のなかった人とも、けやきコミセンを通して交流が出来るようになれば、ますます地域も活性化し、ここに暮らす人もよりいきいきと生活出来るのではないかと思います。

「地域の家のようなコミセンに」

栗原彩子

30周年おめでとうございます。1歳の娘を連れて、初めてけやきコミセンの親子ひろばに足を運んでから4年がたちました。運営委員の皆さんの、あっけらかんと好きなことを言いあっている雰囲気、はじめは少し面食らいましたが、今ではすっかり居心地がよくなりました。そして困ったことがあると皆さんさりげなく助けてくださるのがありがたく、その優しさに甘えてばかりです。私のような子育て中のお母さんだけでなく、一人で考え事をしたい人、ゲームをしたい小学生、勉強したい学生さん、いろんな人が快適に過ごせるけやきコミセンは地域の家のような存在だと思います。

これからもけやきコミセンで楽しいことがたくさん生まれますように！

「けやきあそび隊からの出発」

金子百合子

けやきとの出会いは、長男が幼稚園の時でした。けやきあそび隊が主催した白玉団子と折り紙の会に申し込み、どんな人がスタッフをしてくれるのだろうと不思議がりながら参加していました。小学校に上がり、運営委員のママ友から誘われて、クリスマス用の工作の準備からあそび隊に参加するようになり、以来11年の間に地域の子供たちや、巻きこんだスタッフ仲間達ともつらくて楽しい？思い出を作ることができました。けやきは、これからもいろんな人にとっての、居場所であり続けて欲しいと思います。

「40年ぶりに見つけた居場所」

曾田忠宏

40何年ぶりに吉祥寺に戻った“浦島太郎”が最初に見つけた居場所がけやきコミセンでした。森の中の佇まいが格好良かった。色々な方々とここで知り合うことができました。有難うございます。

その建設の経緯を教えられて、凄いなと思いました。他のコミセンは上から与えられたようなものなのに、ここは自分達でかちとったのだなと思いました。

今でもその感じは残っているように思いますが、一方では、他のコミセンと同じようになってしまったなあと感じます。“わくらす”がすぐ近くにできるのに、反対運動こそおきませんでした。そ知らぬ風だったのが一寸残念。けやき塾で議論があつたら良かった。

「“みんなの家” になってください」

村山 綾子

けやきコミセン30周年おめでとうございます。私がいつも思い描いている理想のコミセンがあります。それは「みんなの家」になること。

例えば…

- ・今日は残業になってしまった…家で子どもが1人…。
- ・台風の影響で学校は3時間目から…おウチの人は朝から仕事…家に1人…。
- ・1人での食事は美味しくない…。
- ・子育て疲れた…悩みを聞いて欲しいな。

などなど…どんな時でもどんな人でも行けば、運営委員さんはもちろん、いつも誰かがいてみんなを受け止めてくれる、みんなの居場所「みんなの家」難しいとは思いますが…でも、みんなそんな場所を求めている！けやきコミセンは「みんなの家」になれる！と信じて応援しています！ GO GO！けやきコミセン！！



人と人をつなぐ自由な空間。

それがけやきコミセン。

いつも笑顔と明るい話し声が

あふれています。

イラスト 若松倫夫

「高校生からも一言」

茂木駿明

僕は、けやきコミセンは、さらに活気が良く、若い人からお年寄りまで多岐に渡って利用される施設になって欲しいです。けやきコミセンにはエレベーターがつき、さらにお年寄りに優しい施設になりました。けやきコミセンは誰でも気軽に立ち寄れるだけではなく、月に一回開催されるコーヒーのお店にも多くのボランティアの方が集い、けやきまつりも子供を主役として賑わいをみせています。しかし現状に甘んじることなく、さらに活気あふれる場所にしてほしいと願います。一人ひとりがけやきコミセンを大事な居場所になるような、そんな素晴らしい大黒柱の役割を果たしてほしいです。

「けやきの30年 これからの30年」

村井寿夫

けやきコミセンは、遠目には扶桑通り公園のけやきにとけ込んでいます。昔、けやきコミセンの場所には飛行機のジャングルジムがありました。そのころ頃、公園のけやきは若木で下枝が多く、やぶ蚊も多く居心地のあまり良くない場所でした。30年を経て、けやきは天高く枝を広げ、公園は快適な樹下の空間になっています。これからまた数十年けやきの寿命は続きますが、けやきコミセンは大丈夫かな？公園のけやきと一体になって住民を包みこんでくれることを期待しています。

「成蹊学園とも交流を進めましょう」 長橋典子 (成蹊大学アジア太平洋研究センター)

第37回けやきまつりの創立30周年企画で、「成蹊学園けやき循環プロジェクト」としてケヤキの剪定枝を活用したキーホルダー作りにスタッフ3名で参加させていただきました。小さなお子さんからお年寄りまで、目を輝かせて集中して工作する姿は、木と人、そして木を介した人と人とのつながりの可能性を感じさせてくれました。

武蔵野市の天然記念物でもある成蹊学園のケヤキ並木の活用を通して、けやきコミセンの皆さんと交流を持てたことは貴重な機会でした。また、運営スタッフの地域・おまつりを良くしたいという熱い想いは心に響くものでした。これからの時代に向けて地域の皆さんと協力して「あるものをどう生かしていくか」を考え、実践していけたらと思いました。

「ミニタウンから育ったもの」

高橋優子

学校だけが人間形成の場ではない！会社だけが人とかかわる場ではない！けやきは地域を豊かにするために工夫を楽しみ、みんなで人と人をつないできました。挨拶できる関係作りから始まり、子ども達と楽しみ、大人を巻き込み、むさしのミニタウンが芽を出した。大きく開花し繰り返し花を咲かせた。少し土を入れ替えもしたが、とうとう花が咲かなくなった。しかし、種は出来ていた。まだまだ若い幹だけど、ちゃんと根を張りだした。今年あの時参加した子供たちがクリーンセンターで teens town として再び芽を出したことが素晴らしい。建て替えの時、雨でも使える場所としてひそかに願っていたことでもある。地域が豊かになるのは、コミセンの中だけでなく生活をするこの武蔵野市にも反映することとします。自分のことだけでなく、ちょっと周りを見渡し、地域に役に立たてるチャンスをつくり、そこだけでない場でもご自身を輝かせてほしいと思います。

30周年記念事業

式典祝賀会 2020年2月2日(日)
祝う会 2020年1月22日(水)
記念誌発行 2020年1月
30周年 けやきまつり 2019年5月19日(日)
30周年記念コンサート 2020年3月1日(日)



30周年ロゴの作成



けやきコミセン30周年



KEYAKI COMMUNITY CENTER



3月16日座談会 19人出席

30周年ロゴの作成を、創立時に成蹊の大学生でニュースやチラシのイラストなどを担当していた横山さんにお願ひしました。

お願ひするにあたり、当時運営委員として活躍されていた方々にお集まりいただき、座談会をしました。開館までの熱意やご苦勞、また今のけやきコミセンに対するご意見、これからへの期待など話し合いました。

テーマ&コンセプトは、〈つなぐ、つむぐ。〉

30年前の開館当初に作成したロゴを継承しつつ、「今」の視点をプラスして、けやきの基本となるロゴ&マークを新しく作り直しました。

このマークデザインの仕事を受ける前に、私は十数年ぶりにけやきコミセンを訪問しました。センター建設への日々を共に過ごしたメンバーと久しぶりに…本当に久しぶりに再会。懐かしい思いがこみ上げてきました。皆で座談会となり、こんな言葉を交わしました——センター開館前から大事に培った「けやきの心」はもちろん大事だけど、当時と今とでは考え方のベースを変えないといけない部分もある。古いものが絶対ではなく、皆で話し合いを重ねながら常に「けやきらしさ」を考えていかないとけない——。

このときの話し込みが、デザインの方向を示してくれました。古いものと新しいものをつないで、絶えず「けやきらしさ」を編み変えていくことが大事だと思うし、そうやって皆で夢を紡いでいくことこそが「けやきの心」なのでしょう。変わることを恐れずに、常に刷新していけば良いのだと気付かされたのでした。

センター窓口では、私が昔作ったリーフレットをそのままに今も使っていてとてもうれしかったのですが、今見ると「けやき」の文字のフォルムが細くてちょっと弱いようにも感じました。けやきの「元気さ」というか「たくましさとしなやかさ」を表せるように、ロゴの骨格やバランスは生かしつつ、文字のラインを太くして形を整えました。今後の印刷物等に役立てていただけると幸いです。

2019年12月 横山ひろあき

30周年 アート企画 窓ガラスを飾ろう



記念ベンチ作成

成蹊学園けやき並木の木を分けていただき、ぜひ中庭のベンチを作りたい。しかしどうやって作ろうか困っていたら、ひよんところで職人さんと出会い、ご指導のもと素敵なベンチ完成。けやきまつりのフォトスポットになりました。

(ご協力 壺井明さん)

けやきの窓ガラスがキャンパス。
私たちの楽しいまちを作りました。
2月2日のワークショップで始まり、
製作は5月けやきまつりまで続きました。
絵が苦手の人、得意な人も、
大人も子どもたちも一緒に参加して
たくさんの仲間が増えていきました。

(ご協力 加賀美真木さん 造形ワークショップ主宰)

エレベーター設置工事に伴うリニューアル

2019年6月1日～2020年2月2日まで長期休館し、
エレベーター設置工事を行いました。



エレベーター設置のほか、フローリングの床の張替え、壁と天井・木部の塗り直し、こどもルームのロールカーテンと上がり口の改修、学習室のドアの改修、コミュニティルームと2階廊下のシステムキッチンに入れ替え、照明のLED化、玄関周りのライトアップや倉庫周辺非常階段付近の照明の改修なども行われました。

また、コミュニティルームのアンティーク机のメンテナンスをしました。

****きれいで使いやすくなったけやきコミセンを大いに活用しましょう****

いっぱい友達できたかな？

けやきの30年を振り返って

けやきコミセンでは
常に話し合い、地域みなさんと
協力して事業を行っています。

けやきまつり

夏まつり

どんど焼きとむかしあそび

クリスマス in けやき (for キッズ)

・・・など

窓口での
日々の出会い

チームを作ってなかまづくり
まちづくり局チームの活動
フェスタやまとめの会・・・など

**話し合いの場 **

運営委員会、事務局会、代表委員会 月1回

各事業の実行委員会

担当する係の集まり・窓口研修・懇談会

学舎 しゃべり場 など

けやきの活動は、今までのさまざまな活動によるつながりや経験から生み出されています。

30年を振り返って その年の主な出来事をまとめてみました。

1989	けやきコミセン開館（12月16日）、開館を祝う会開催
1990	開館記念行事「わっ！和っ！輪っ！の集い」（1/28） コミュニティのつどい（ジャガイモとワインほか 7/8） 若者懇談会（7/14）
1991	「早川パネル」（コミュニティルーム）除幕式（2/10） 小島広志 彫像『花』除幕式（5/12） 柊祭（利用者の活動発表と交流）（12/1） けやき学舎、連続講演会開催
1992	「けやきコミュニティハンドブック」作成
1993	<おもしろ発見会議（けやきまちづくり総合計画'93）> お化け大会と流しそうめん（9/8） 利き酒パーティ（9/25） さんま炭火焼きパーティ と秋の夕べ（10/16） 千川を歩こう（9/11） 参加者交流会・いま市（11/13） 写楽写真展（2/17） 打って食べてそばの楽しみ（2/20） おもしろ発見大パーティ（2/27） 野外ペイント（3/27）など、のべ参加者14,000人 「北町お店マップ」完成
1994	5周年を祝う会（12/17） 『けやき並木に続く道』（5周年記念誌）発行
1995	<まち発見（けやきまちづくり総合計画'95）> 環境編／福祉編／施設編で活動 みんなおいでよ！わがまち探検（10/22） 私の宝物展（12/3～） シャンソン・ド・マヤコンサート（12/9） わいわい手づくり広場（2/24）など
1996	<いいまち創ろう（けやきまちづくり総合計画'96）> 忍者修行道場（9/8） 秋のコンサート（10/12） 花市（11/5） いいまちフェスタ（11/17） おひなさま展（2/25～） わんぱくチャレンジャー（3/2） トークトーク「いいまち創 ろう ゆめを形に」（3/20） いいまち DONCHAN（3/30） など
1997	まちづくり局誕生 トークトーク II 「いいまち創ろう まとめの会」（3/15） 花フェスタ（10/25）
1998	いいまちフェスタ'98（10/25）
1999	<いいまち創る『出会いの広場』> 三つの広場（公開の広場／企画の広場／展示の広場）が活動 トークトーク III（3/14）
	10周年を祝う会（10/17）

	『まちをつくるー新しい結びつき・けやきの10年』(10周年記念誌)発行
2000	《出会い・再発見》シンポジウム(3/11) 出会いの広場週間(2/17~3/12) まちづくり局の活動が活発化 千川上水プロジェクト からだほぐしとお食事の会 けやきガーデナーズ まちの中の美術館 けやきあそび隊 よみきかせ紙ふうせん 子育て井戸端会議
2001	まちづくりの手法としてワークショップの学習をおこなう
2002	学舎再開 けやきまつりに小学生スタッフが企画から参加
2003	ホームページを開設 ワークショップ「コミュニケーションを深めよう」 けやきしゃべり場発足 浅岡幸彦先生のお話 地域での子育て懇談会(小中学校・PTA・幼保育園・青少協など) チャマメコンサート(9/12) 千川上水樹名板の取り付け エコマネーの研究はじまる
2004	エト研究会、けやき茶社スタート 15周年記念コンサート(11/25) 15周年記念交流会(12/22)
2005	講演会「大学のある町」成蹊大学加藤節先生 開催(2/16) しゃべり場 6年生の卒業を祝う会開催(3/27) 指定管理者制度スタート 「成蹊大学ウォッチング。周辺ウォッチング」扶桑通りの緑化について エト市 ナイトウォーク 始まる
2006	けやきの明日を考える会発足 まちづくり三者懇談会開催(成蹊学園・緑化センター・けやき)(6/24) けやきコミュニティのつどい(7/15、9/30) 「子どもの参画を進める会」発足 しゃべり場で卯月氏講演会(10/29)、「ミニタウン」に向けて準備が進む
2007	むさしのミニタウン開催(3/25、26)
	学舎 扶桑通りの交通実態調査実施
	まちづくり局フェスタで「炭火焼さんまを味わおう！」開催(10/20)

	文化企画 川上村ジョイフルコンサートと新緑の高原ウォーク (6/23~24)
2008	むさしのミニタウン開催 (3/29、30) しゃべり場「けやきってなんだろう」安藤氏 (6/30) まちづくり懇談会 (成蹊学園、市、けやき、) 緑化・交通量について (6/28) 文化企画 (10/23~24) 川上村散策とジョイフルコンサート
2009	まちづくり局感謝祭「このゆびとまれ!まちづくり」(3.7) むさしのミニタウン開催 (3/28、29) 防災組織ネットワーク「防災を考える会」立ち上げ 市と共催の防災訓練 「みどりのまなびや」(全4回開催) 学舎しゃべり場 宇賀神勲氏・吉田善明氏・野津功氏のお話し、大学生によるけやきコミセン研究発表 中庭にオーニングを設置 20周年記念コンサート「おしゃべり音楽会~気軽にクラシック」(10/17) エトフェスタ (エト市・文化祭) (11/28) 20周年記念式典 (12/6)、祝う会 (12/23)
2010	大野田地域防災の会設立 (1/23) まちづくり局まとめの会「活動報告」(2/28) むさしのミニタウン開催 (3/27、28) 「けやきニュース」100号を発行 高木侃氏講演会「縁切寺に学ぶまちづくり」(9/26) 川上村ライブと紅葉の高原散策 (11/17~18) エト市文化祭 (11/27)
2011	文化企画 延藤安弘氏講演会 (緑町パークタウン自治会と共催、1/16) 市民と市長のタウンミーティング (2/14)「これからのコミュニティ」 東日本大震災による節電のため臨時休館 (7月、8月で10日間、) けやきまつり収益金を義援金へ。窓口で義援金を集め日赤へ。 エトフェスタ (エト市・文化祭) (11/6) まちづくり局けやき塾誕生
2012	しゃべり場 「けやきに恋!しゃべりに来い!」(3/1) まちづくりフェスタ (3/20) 10チームのブースを回ってのスタンプラリー
	文化企画 歌声喫茶 (3/25) むさしのミニタウンけやき村開催 (3/27) けやきまつりで東北支援の物産販売 (5/27)

	<p>部屋の予約状況をパソコンで確認することができるようになった。</p> <p>まちの安心基本講座（11月、12月に3回開催）</p> <p>認知症サーポーター養成講座・自転車安全利用講座・AED救急救命消火器講座</p> <p>文化企画 三遊亭橘也落語（9/22 1/20）ハート to ハートコンサート（12/16）</p>
2013	<p>研連スタンプラリー（3月）～2016まで開催</p> <p>文化企画 歌声喫茶（3.24）</p> <p>むさしのミニタウンけやき村開催（3/26）</p> <p>運営委員最大 60人</p> <p>和室に机と高座椅子を購入</p> <p>文化企画 三遊亭橘也落語（9/1 1/26）</p> <p>文化企画 アンサンブルフェリーチェコンサート in 四中（10/13）</p> <p>まちづくりフェスタ ハープとフルーツの調べ（10.27）</p> <p>チャリ検（自転車の交通安全講習）開催（11/4）</p> <p>しゃべり場 「コミュニティってなあに」市職員大橋氏お話し（11/14）</p>
2014	<p>しゃべり場「子育て世代について話し合う」（1/16）「コミュニティ居酒屋」（2/23）</p> <p>文化企画 わいわいスティールバンドコンサート（2/8）</p> <p>子育てボランティアぽっぽ隊親子広場「ひなまつり」（2/28）</p> <p>むさしのミニタウンけやき村開催（3/26）</p> <p>まちづくりフェスタ 流しそうめん開催（7/21）</p> <p>「支え合いステーション」の話し合いが始まる</p> <p>秋の文化企画 午後のカフェコンサート（11/1）</p> <p>けやきフォーラム開催（11/26）「地域につなげる！地域をつなげる！」</p> <p>25周年を祝う会（12/17）・青空市出店（25周年祝う会のため）</p> <p>宝くじ備品として大型テレビ・パソコン・工作室椅子など購入</p>
2015	<p>コミュニティわいわい広場（移動児童館）開催（1/29）</p> <p>文化企画 春風にのって「コラン」ライブ（3/29）</p> <p>エレベーター設置について検討がはじまる</p> <p>まちづくり局ゲームを楽しむ会誕生</p>
	<p>しゃべり場「地域に期待されるコミュニティとは」（4/23）</p>
	<p>コミュニティわいわい広場（移動児童館）開催（10/28）</p> <p>文化祭とまちづくりフェスタ（11/5～6）</p> <p>地域フォーラム開催（11/29）「防災とコミュニティ」</p>

	改修工事により休館（1/15～2/13）1階女子トイレと空調機交換 文化企画 ビートレスライブ（11/1）
2016	文化企画 入江則夫氏 世界の民族楽器で奏でるコンサート（1/31） 市民と市長のタウンミーティング（2.14）「これからのコミュニティ」 しゃべり場「エレベーター設置が必要か？人にやさしいコミセンとは」（3/24） 地域フォーラム開催（7/24）「公共施設の未来」 エレベーターの設置について 地域のアンケート（10/2） 文化祭（作品展示、まちづくりフェスティバル）開催（11/5、6） コミュニティわいわい広場（移動児童館）開催（11/9）
2017	文化企画 ラス・フロレスコンサート（3/5） エレベーターの設置が決まる。意見交換会（5/27） 30周年実行委員会立ち上げ まちづくり局にボッチャ楽笑会・こもれびひろば誕生。 コミュニティわいわい広場（移動児童館）開催（7/12） 地域認知症講座開催（8/1）北町地域で安心して住み続けられるために～ 文化祭（作品展示、まちづくりフェスティバル）開催（11/4、5）
2018	学舎 地域課題抽出のための話し合い（1/20） 学舎「いまあらためて考えてみよう！コミュニティとはなにか？」江上渉氏（6/17） 新旧 男たちの座談会（10/16）ニュース編集部 まちづくり局フェスタ 野外映画（10/13） 文化企画 川上村コンサート（10/14～15） 支え合いステーション防災無線訓練（10/28） 文化企画ミニミニコンサート（2/3）
2019	エレベーター設置工事のため休館（6/1～2/2） 映画会「いろとりどりの親子」 法人武蔵野・大野田福祉の会共催（12/4、7） 開館30周年（12月） 詳細はP. 9

さあ！これからどんなつながりが始まるのでしょうか。けやきで一緒に

30 周年実行委員会 & 編集後記

30 周年のテーマは「未来につなぐコミュニティ」です。積み上げてきた 30 年の人と人のつながりや経験を未来につないでいきたいという願いを込めました。

30 周年実行委員会は 2017 年 10 月 18 日に立ち上がりました。なかなか実感がわからないぼんやりしたスタート。30 年間何をやってきたのだろう、そこからみえてくるけやきのこれからは・・・と話し合ってきました。

今年度初めの実行委員会、いよいよ本腰をといるときに、初めての長期工事休館。話し合うことが山ほどあるけれど場所がない！資料がない！連絡が取りにくい・・・けやきコミセンがないと人が固定しがちです。場所のありがたさが身に沁みました。

記念誌づくりについて、急な原稿依頼にご協力ありがとうございました。活動を振り返ると、30 年間たくさんの人との出会い、新しいことへのチャレンジ、つながりが生まれていました。それがあってこそ今のけやきコミセンがあることに気づかされます。経験した活動やそれを支えた人、地域の皆様に感謝です。これからけやきはどんなことを生み出していくのでしょうか。

今後また皆さんの笑顔がひろがってほっとできる心地よい居場所であるために、皆さんと一緒に考えていきましょう。

30 周年実行委員長 記念誌編集長 中澤幸子

表紙イラストについて
だれでも参加できるアート企画で、参加された小さな子ども連れのご家族のママがその場で描いてくださったけやきコミセンです。
素敵なイラストをありがとうございました。

発行 2020 年（令和 2 年）1 月 22 日

編集 けやきコミュニティ協議会
武蔵野市吉祥寺北町 5-6-19
電話 0422-54-8719

30 周年実行委員会記念誌チーム

中澤幸子・吉松杉子・小林美奈
高田昭彦・江上渉

けやき

KEYAKI COMMUNITY CENTER

